

平成30年度 学校評価書（自己評価・学校関係者評価）

山形県立米沢興譲館高等学校

目指す生徒像	1 自他の生命を尊重し、調和の取れた人間性豊かな生徒 2 謙虚に学ぶ姿勢を身につけ、高い志を持ってその実現に向けて努力する生徒 3 次代のリーダーとして、自立し、世のために尽くそうとする生徒
--------	---

重点目標	1 自立に向けた生徒指導の展開
	2 学習環境の整備と健康・安全教育の推進
	3 学力の向上
	4 探究型学習の推進
	5 進路指導体制の充実・強化
	6 魅力ある開かれた学校づくり
	7 校務情報化の推進
	8 教職員倫理の醸成と健康管理や働き方の改善への対応

達成度	A 達成・・・ (3.0以上)
	B 概ね達成・・・ (2.5以上)
	C やや不十分・・・ (2.0以上)
	D 不十分

評価	4 達成
	3 概ね達成
	2 やや不十分
	1 不十分

番号	評価項目	自己評価		達成度	次年度に向けた改善策	学校関係者評価	総括
		具体的方法と指標・基準	評価			意見・要望・評価等	
1	自他の命を大切にし、違いを認める態度の育成ができています。	・生徒課主管の様々な活動において、良好な人間関係を構築できるような話し合いの場を設定する。 ・各分掌と連携した情報共有と機会を捉えた生徒状況把握による指導上の諸問題を早期発見する。 ・アンケートや面談によりいじめの実態を把握する。 ・スクールガード事業やいのちの講話及び各種講演会等をおこなって、いのちの教育を推進する。	3.1 A	A	・学校いじめ防止基本方針のもと組織的・計画的な取り組みを推進する。 ・様々な場面での生徒観察を通して生徒の状況把握に努める。 ・生徒のスマホ・携帯電話利用状況や環境について理解を深めネット被害等を防止する。 ・特に自転車乗車について、交通安全のルール・マナーを守るよう声掛けを継続して行うとともに機会をとらえて指導する。 ・学習、部活動、行事等をおこなって、生徒が主体的に活動できるよう一層の声掛けを行う。 ・部活動終了後の切り替えを継続的に指導し、タイムマネジメントの徹底を図る。		
	「自己効力」の育成を目指した学習指導、部活動、学校行事、生徒自治会活動が推進されている。	・生徒による学校生活評価と同じくして、自己効力測定尺度調査を実施し、生徒の情報共有会議や未来創造会議の資料とする。 ・部活動、学校行事、自治会活動等において、生徒の自主・自立的な企画・運営を図る。 ・外部生徒との交流会において、生徒の自主的な活動を支援する。	3.0 A				
	タイムマネジメント（4点固定や生活学習時間調査の実施等）により生活習慣が確立されている。	・日常の声掛けや立哨指導等を行うとともに、交通安全講話や薬物乱用防止教室の実施による社会のルールを守る態度を育成する。 ・マナーアップ運動や交通安全運動を展開し、端正な服装や挨拶ができる生徒、ルールを守る態度を育成する。 ・各種委員会活動の自主的な活動を推進する。	2.6 B				
2	生徒の健康安全管理能力の育成と教育相談体制が充実している。	・「避難訓練」の効果的な実施により生徒の防災意識と実践力の向上を図る。 ・「保健だより」の発行による心身の健康に関する話題を提供し、生徒の意識を醸成する。 ・効果的な教育相談の実施と適時的なカウンセリング委員会を開催する。 ・保健委員による健康観察を実施する。	3.1 A	B	・危機管理マニュアルの内容を吟味し、見直しを継続的に進める。 ・様々な災害を想定し適時的な避難訓練を考えると同時に、避難経路の分散を図り、素早い避難ができるようにする。 ・見直した業者の緊急連絡メールシステムを効果的に運用する。 ・列車不通等へ素早く適切に対応する。 ・感染症の情報を迅速正確に収集し、早期に適切な対応ができるよう体制を整備する。 ・保健委員の健康観察の在り方について継続検討する。 ・カウンセリング委員会で情報交換と支援策を検討するなどし、効果的に且つ適切に対応する。 ・学校生活を送る校舎の美化に努める意識を育てるため、日々の清掃活動に丁寧に取り組む。 ・各分掌止まりになる生徒個々の情報を、分掌を越えて共有できる体制の構築に努める。		
	危機管理体制の整備と施設設備の安全点検が行われている。	・「危機管理マニュアル」の点検と周知徹底を図る。 ・見直したメールシステムを効果的に活用する。 ・毎月安全点検を実施し、不備へは迅速に対応する。	2.8 B				
	校舎内外の清掃の徹底と美化活動が積極的に行われている。	・清掃箇所を明確にし清掃指導の徹底、用具の管理の徹底と定期的な衛生用具の点検・補充をする。 ・清掃強化週間を複数回設定し実施する。 ・定期的に美化委員による点検活動を実施する。	2.7 B				
	生徒課と保健課の連携による生徒自治会活動の充実と支援を要する生徒の理解が推進されている。	・生徒の学校生活実態調査を実施し、充実した高校生活に資する。 ・配慮や支援を要する生徒の情報を学校全体で共有し、指導に生かす。	2.8 B				
3	「自己効力」を高める指導と評価が実践されている。	・年間指導計画表による授業点検を行い、生徒が見通しを持った学習ができるよう学習計画表を配付する。 ・生徒の自己効力が高まるよう、学年団や教科担当者を中心に生徒面談を行う。 ・多様な評価を実践する。	2.8 B	B	・各分掌との連携により、教育課程をよりよく運営すると共に、教育課程を検証する。 ・ICTを有効活用した授業の充実を図る。 ・指導力向上を図る教員研修を継続実施する。 ・探究科設置に関わる分掌間の連携と役割分担を図る。 ・授業評価を継続し、授業改善に資するよう工夫する。 ・評価法についての職員研修をさらに深める。 ・探究型学習を継続研究し、授業実践等で職員全体で共有する。 ・現行教育課程と新教育課程が混在する期間の教育課程を点検し、円滑に移行できるよう運営する。 ・授業第一主義を徹底する。 ・多様な評価を継続する。		・進学実績を高める具体的な方策が見えるようにしてほしい。 ・他地区から受検者が増えるような戦略を立ててほしい。 ・卒業生の保護者の評価も大事にしてほしい。 ・ホームページやフェイスブックが情報収集の要ゆえ、速く更新すること。 ・郊外にある立地条件を超えて、本校に行きたいと思わせる施策が必要である。
	自ら考え主体的に学ぶ姿勢と「質問力」が育成されている。	・授業研究期間や授業公開日を設定し、相互研修・指導力向上を図り、生徒の主体的活動を引き出すよう研修する。 ・年2回の生徒による授業評価をおこなって、自己点検を実施する。 ・生徒の主体的・対話的で深い学びを引き出すよう、探究的な学びを推進する。	2.8 B				
	教科指導力の向上を図る研修会が充実されている。	・自己効力向上や評価法について、外部講師を招聘し研修会を複数回実施する。 ・ICTの整備と、有効活用した授業展開を推進する。 ・長期休業期間を活用し、外部研修会等への参加を推奨する。	2.9 B				
	探究科、普通科のねらいと生徒の実態を踏まえた教科指導がなされている。	・カリキュラム編成委員会を適時的に開催し、点検精査しながら運用する。 ・1・2年生全員において、探究的な学びを実施し評価する。 ・年2回の生徒による授業評価をおこなって、授業改善のために授業点検を実施する。 ・表現活動推進委員会による朝読書を実施する。	2.7 B				
	第3期SSH研究開発事業の推進と2年目の実践が効果的に行われている。	・「スーパーサイエンスハイスクール事業」を効果的に活用し、体験的な学習活動を充実させるとともに、探究的な学びを深める。 ・生徒課題研究発表会を全校挙げて実施し、SSH事業の普及を図る。	3.2 A		・3期目のSSH指定における事業を点検・整備するとともに、計画に沿って実施し、中間評価に備える。 ・SSH事業の推進をおこなって、国際的視野が広がるよう生徒に還元するとともに、校内組織の連携の充実を図る。 ・生徒の外部研修等への参加を推奨する。 ・探究科の基本的な教育方針等を職員全体で確認・共有し実践する。 ・中核教員研修事業を還元するとともに、一層の深化を図る。		・設置初年度の探究科カリキュラムの評価法、日課などを計画通りに実施した。 ・探究科の動きや探究的な学びについて、職員会議などをおこなって随時共通認識を図った。また、地区別学校説明会を5箇所で開催実施するなどして、中学生やその保護者、地域の方々へ理解を深めてもらった。来年度も継続実施が望ましい。
	探究科の教育課程に係わる中学校・保護者・中学生・地域の方々への周知が行われている。	・探究科について、地域等へ積極的に普及・広報する。 ・地区別学校説明会の実施をおこなって、探究科及びその取り組みについての周知を図る。	3.4 A				
	興譲館版「未来創造プログラム」による将来の進路希望を踏まえた探究型学習が推進されている。	・キャリア教育の一環としての学部エキスパート制により、3年間を見通した指導をする。 ・T T TやS S R等の体験的な活動をおこなって、探究的な学びを深める。	3.1 A				

4	探究型学習推進委員会及びユネスコスクール準備委員会を立ち上げ、学校全体で推進されている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>ユネスコスクール採択に向けて、外部研修会等へ積極的に参加する。</li> <li>SDGsを指標として、FSやSSRに取り組む。</li> </ul>	2.9 B	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>探究科と普通科及びSSH事業を外部に向けて積極的に発信する。</li> <li>ユネスコスクール指定に向けた取組みを実施する。</li> <li>高等教育機関・関係教育機関とは継続的に連携する。</li> <li>連携する企業の拡大を図り、連携の一層の深まりを検討し実践する。</li> <li>ESDエキスパート制をととして、探究型学習と進路指導の融合を図る。</li> </ul>	<p>は高いが、満足していない生徒もいる。その生徒たちに目を向ける。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>興譲館だからこそのカリキュラムを作り特徴づけが必要な時代となる。</li> <li>教員となる後進の育成も視野に入れる。</li> <li>地元の大学生や留学生との英語でのコミュニケーションをとる経験も重要な時代である。</li> <li>学校で生徒が行う活動量が増えている。負担になるような生徒が出てこないとも限らない。配慮した指導をしてほしい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>新たな未来創造プログラムを、探究的な学びやSSH事業と関連付けながら実践した。</li> <li>未来創造プログラムを元に全職員が相互に連携した教育実践が展開できた。また、各教員の専門性を生かしながら教科横断的な進路指導が実施できた。</li> <li>部活動において、限られた時間を有効活用し一定の成果が得られた。</li> <li>朝の立哨指導を継続することにより、生徒理解を深め登校の安全を確保した。</li> <li>メールサービスを有効活用し、各分掌等で学校の情報を適時的に発信した。</li> <li>スクールカウンセリングの有効的な活用により、生徒理解が深まり生徒の適応支援につなげた。</li> </ul>
	地域の高等教育機関や企業と連携した教育が一層推進されている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>国際科学技術系オリンピック等へ積極的に参加する。</li> <li>台湾海外研修や留学生によるチームティーチングなどで国際性を醸成する。</li> <li>高大融合協定に基づく山形大学工学部開講講座を積極的に活用する。</li> <li>Diversity-KOJO講座等により米沢栄養大学との更なる連携を図る。</li> <li>米沢市理科教育センターと連携した取組みを推進する。</li> <li>FS等の機会を活用し、企業等と積極的に連携する。</li> </ul>	3.4 A				
5	キャリア教育実践プログラムに基づく高い志を育む指導と系統的な進学指導が推進されている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>キャリア教育実践プログラムにおける諸指導の目的を常に確認しながら実施し、PDCAを回しながら指導を確立する。</li> <li>難関大学進学指導体制の充実と指導力の向上を図る。</li> <li>KITや友子会をととして、高い志を維持した進路指導を実施する。</li> <li>地域の医療機関や企業との連携を図り、生徒のキャリア意識を高揚させる。</li> </ul>	3.1 A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>探究科設置及びSSH継続指定を反映した、より効果的なキャリア教育を推進する。</li> <li>入学初期の学力を踏まえた指導の在り方を検討する。</li> <li>3年間の系統立てた指導の一層の充実と、志望校決定に向けての面談等に早期に取り組む。</li> <li>推薦・AO指導を全職員体制で早期から実施する。</li> <li>各種コンテストへの参加を継続的に推奨する。</li> <li>3年間を見通したESDエキスパート制を基盤とするキャリア教育を実践する。</li> <li>大学入試改革関連情報を適時的に発信する。</li> <li>推薦・AO指導と一般入試指導の適切なバランスに基づいた指導体制を構築していく。</li> <li>生徒未来創造会議「生徒情報共有会議」の充実発展を図る。</li> </ul>		
	個に応じた進学希望を実現するための組織的支援体制が充実されている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒面談を随時実施ことにより、生徒の多様な進路志望へ対応する。</li> <li>理数科・教務課を中心に、他分掌との連携を強化し、SSH事業のより一層の推進を図る。</li> <li>表現活動推進委員会を中心に、SSH事業での表現活動の指導を整理したより効果的な指導体制づくりを推進する。</li> <li>各種コンテストへの積極的な参加を勧奨する。</li> <li>推薦・AO入試制度を研究し積極的に活用する。</li> </ul>	3.0 A				
	「生徒未来創造会議」、「生徒情報共有会議」による全職員共通理解による一人ひとりの能力を引き出し育む指導が推進されている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>年2回ずつの開催により、生徒の情報を全職員で共有し、個々に応じた進路指導を実践する。</li> <li>資料を随時閲覧できるようにし、日々の生徒指導に生かせるようにする。</li> </ul>	2.9 B				
6	各種評価及び学校関係者評価委員会が効果的に機能している。	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒による年2回の授業・学校生活評価及び保護者による学校評価、教職員による自己評価を実施し、授業改善、教育活動へ活用する。</li> <li>年2回の学校関係者評価委員会の実施により、助言内容を本校教育活動改善へ反映させる。</li> </ul>	3.0 A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>各種評価の内容を点検・検討する。また、方法を確認するとともに引き継ぎ事項を整備する。</li> <li>各種評価による改善事項をまとめ、次年度に繋げる。</li> <li>三団体との連携を継続する。</li> <li>探究科のPR活動を継続して計画・実施する。</li> <li>HPの速やかな更新を図る。</li> <li>進路課通信の発行部数を伸ばし、より一層の情報提供に努める。</li> </ul>		
	保護者・地域との連携、社会参加活動は積極的に行われている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>保護者向け進路説明会を実施し、情報提供と啓発活動をすることで連携を図る。</li> <li>保護者の本校教育活動への参加意識の高揚を図り、広報活動やHPにより情報を公開する。</li> </ul>	3.0 A				
	学校のホームページを含む広報活動は積極的に行われている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>各課、学年と連携し、ホームページを迅速に更新する。</li> </ul>	3.1 A				
	説明責任に基づく事務処理が適切に行われている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>事務部と連携し確かな事務処理を遂行する。</li> </ul>	3.2 A				
7	校務支援ソフトが導入され効果的に活用されている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒の活動記録や学習の記録等を一元管理し、正確かつ迅速に処理ができる。</li> </ul>	2.6 B	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>校務支援ソフトを活用し、業務の効率化を進める。</li> <li>グループウェアを立ち上げ、情報の一元管理を図る。</li> </ul>		
	学校ホームページシステムのリニューアルとグループウェアの立ち上げがなされている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校ホームページを見やすくし、職員が更新しやすくする。</li> <li>グループウェアにより、学校内での情報のやり取りがしやすくなる。</li> </ul>	2.8 B				
8	年間計画作成による教職員倫理の醸成がなされている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>倫理委員会を中心として、適時的に綱紀肅正について触れる。</li> <li>管理職から適時的に情報を発信する。</li> </ul>	3.1 A	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>年間計画の確実な実施により教職員倫理感の浸透を図る。</li> <li>行事・会議等の精選や、事業の見直しなどにより業務量の縮減を図る。</li> <li>役割の分担化、分散化により業務量の軽減を図る。</li> </ul>		
	教員の多忙化低減や働き方改革の視点を踏まえた業務の改善がなされている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>部活動の複数顧問制により、交替しながら指導に当たる。</li> <li>校務分掌の分担化・分散化により、業務の軽減を図る。</li> </ul>	1.9 D				

自己評価及び学校関係者評価の改善点、他	<ol style="list-style-type: none"> <li>探究科設置2年目における分科後の学校全体での組織的な取組みの展開</li> <li>SSH第3期3年目の取組みの充実と中間評価に向けた事業点検とまとめ</li> <li>全教職員の共通理解と認識のもとでの3年間を見通した学習指導・進路指導・生徒指導の展開</li> <li>保護者、地域から信頼され理解されるための情報発信の工夫</li> </ol>
---------------------	--